

外から見えにくいからこそ、 この仕事の魅力をもっと発信したい

介護福祉士

佐藤 元夢さん (28)

社会福祉法人 壽光会 デイサービス リアン

地元の高校を卒業後、県内の帝京福祉専門学校へ進学。卒業後、社会福祉法人壽光会に入社し、現在に至る



職場の雰囲気に魅了されて

「介護施設の中って何をしているのか分からない人も多いんですよ。通所や入所する人でさえ、
“あそこに入ったら出てこれられない”とか“どんなところか分からないから怖い”なんていうイメージを持っているんです、それが若い人なら尚更ですよ。見えない
＝怖い・嫌いってなるのは当たり前のこと、だからこそ発信をもっともっていかないといけない
と最近強く思うんです」。

そう熱く語るのは、20歳の時に新卒で入社し、現在ではデイサービスリアンの管理者を務めている若きエース佐藤元夢さん28歳。佐藤さんが福祉の仕事に興味を持ち始めたのは、祖父が認知症になった時の経験がきっかけだといいます。

「もちろん実際に経験したことがきっかけというのもあるけれど、それとは別に、少子高齢化がこれだけ進んでいく中で、ずっと必要とされる仕事であり、将来性のある職業だと思っています。でも実際は、専門学校1年時に初めて行った実習で“こうした現場で働けるかな”と少し不安になった時期もありました。2年生になると、1ヶ月の実習があるので、そこで若い働き手が多い職種であることや職場の環境が整っていて、みんな仲良く働いている姿を見て、改めてこの道に進む決心ができたという感じでした」。



爽やかな笑顔が素敵で佐藤さんは、利用者さんにも大人気。取材時、みんなと楽しそうに過ごす姿が魅力的でした。



日々さまざまな活動を行なっているリアン。みんな楽しそうに過ごしている姿が印象的

けれど、初めて見学に行ったときに感じた、なんとも言えない職場の良い雰囲気や年齢問わずコミュニケーションを大切にしている現場の様子に自身も加われたことが嬉しかったと話します。



Motomu Sato